

第2章は、国有商業銀行の不良債権の発生メカニズムを考察するため、国有企業の経営悪化問題と国有商業銀行の不良債権累積問題を、貸し手、借り手がともに国有企業であるということに注目して要因分析を行った。1979年の改革開放政策の実施で中国は計画経済から市場経済に舵を切ったがこの転換期を境に、とくに4大商業銀行（中国銀行(BOC)、中国人民建設銀行(CCB)、中国農業銀行(ABC)、中国工商銀行(ICBC))がどのようにして大量の不良債権を抱えるに至ったか論じている。そこでは、中国の計画経済体制下で醸成された取引慣行の「三角債」が不良債権の原因としてクローズアップされている。三角債とは、売り掛け金が回収できないため原料や製品などの仕入れ代金を支払わず債務として残しておくやり方で、企業が順に借金を付回しするようなシステムである。国有銀行の不良債権が問題となりその中で大きなシェアを占めていた三角債を解消するため、政府は国有商業銀行を介して国有企業に融資し続けた。しかしこれは債務の置き換えとなっただけで国有企業の経営が改善するわけでもなく、不良債権が累積したことを本論文は明らかにした。社会に根付いた取引慣行のため、いまだにこの問題が深刻であるといわれるが、本論文の貢献の一つが、「三角債」を国有商業銀行の不良債権の発生原因の一つである、と断定して考察したことである。

第3章は、国有商業銀行の不良債権処理方法を整理し検討している。処理方法を大別すると、行政手段（政府による資産管理会社の設立や公的資金投入）と市場を介した処理（債権の証券化や国内外の投資家への売却）に分類できるが、過去の事例を整理して比較考察している。

第4章は、中国の銀行制度改革における外国資本の役割についての分析である。中国は2001年にWTO（世界貿易機関）に加盟し、2006年12月までに銀行業務を全面的に外資に開放することを公約した。迫りくる世界規模の競争に備えて金融制度改革は急務であり、銀行制度も国有商業銀行の改革を中心に進められている。不良債権処理で国有商業銀行の体力回復を図るが、銀行経営におけるコーポレートガバナンスの確立や技術開発は、銀行制度の近代化に不可欠の改革要素である。金融部門の技術開発は、基本的に膨大な資金と豊富な専門知識を持った人材が組み合わさってなされるが、時間の制約があるため中国は10年ほど前から、国有銀行の経営近代化のため外国の先進技術を導入する方法を模索してきた。一方、情報が不完全のまま参入しようとする外国投資家にもリスクを超える潜在的メリットがあるはずである。外国資本導入の背景にある、中国（政府）と外国投資家の戦略的動機、中国銀行制度への外国資本参入の方法、そしてその期待される効果とはいかなるものか、などを考察している。外国資本の中国資本市場への参入は日が短いため事例は少なく、また情報が十分公開されていないためデータも少ないといった困難はあるが、事例として中国初の国有株式制銀行である中国交通銀行のケースを取り上げている。その結核、中国交通銀行が外国資本を導入したことでその株価は上昇し、またコーポレートガバナンスが改善し競争力が向上したことが明らかになった。このように最新の情報を使って、中国の銀行制度における外国資本の役割を考察したことが本論文のもう一つの貢献である。

また最後に、銀行制度改革について、国有銀行の所有と経営を分離し、国有商業銀行の民営化が制度改革の最終目標である、と結んでいる。

以上のように、本論文は「一点から全体へ」、すなわち「一点：国有商業銀行の不良債権問題」を通じて「全体：銀行制度の問題」を考察する、というアプローチで中国金融制度に内在する問題を考察し、中国の銀行制度改革に相応しい手法を模索しながら将来を展望したものとなっている。

審査結果の要旨

世界的な競争に耐えうる中国の金融制度確立には何が必要か、といった極めて現実的で重要な問題に対して、韓冰氏は国有商業銀行の不良債権問題を解決して銀行の経営基盤を確立して銀行制度の近代化を図ること、としている。本論文では、中国銀行制度問題の所在を明らかにし、その原因分析と解決策を模索する上で、最新の情報を盛り込んだ研究となっている。さらに、本論文の特筆すべき貢献は主に以下の2点である。

- (1) 先行研究では、不良債権の問題と国有企業の三角債の問題は切り離して論じられており、「三角債」が国有商業銀行の不良債権問題の原因であり、中国の金融、銀行制度の問題点を社会制度的にとらえて、資金の貸し手も借り手ともに国有企業であることを明確にした韓冰氏の洞察力はきわめて高く評価できる。一方、
- (2) 国有商業銀行の不良債権処理後の銀行制度改革の手法と効果の分析においては、外国資本の積極的な役割を評価している。中国発の情報は他の先進諸国と比較してまだ十分とはいえ、情報収集は困難であるが、韓冰氏が出来る限り新しい情報を集めて行った事例研究では、国有株式制銀行に外国資本を導入することでコーポレートガバナンスの改善や競争力の向上などプラスの効果があることが明らかになった。このように中国の銀行制度改革における外国資本の役割を考察したことがもう一つの貢献である。

これら2つの論点は、いくつかの研究会で大きな関心を集めた。欲を言えば、三角債と不良債権の関係についてももう少し計量的な分析があるなら、なお良かったと思われる。しかし、国有商業銀行の不良債権問題を通して、中国の金融、銀行制度の問題点を体系的に整理し分析した論文は極めて少なく、このことから本論文は高く評価される。

本論文が、経済学の分野である中国の金融制度、とりわけ銀行制度に注目して制度改革とその行方を研究したものであり、本審査委員会は全員一致で、博士（経済学）の学問水準に達していることを確認した。